

水レター「びわ湖・よど川」

2010. 3. 18 【vol. 8】
独立行政法人 水資源機構 関西支社 発行

水レター「びわ湖・よど川」は、水資源機構全体の取り組みや淀川水系における取り組みに関する情報、さらに琵琶湖・淀川水系の水源地域情報を関西管内の関係者（利水者、関係府県、関係市町村及びその他関係機関）の皆様へ直接配信しています。

目 次

1. 利水者の皆様、関係者の皆様へ p 1
2. 関西管内の管理ダムにおける気象と水事情について p 1
3. 平城遷都1300年祭の開催 p 3
4. 京都府乙訓浄水場と大阪府村野浄水場を見学して p 7
5. 国際生物多様性年にあたりダム湖畔にて思うこと p 8
6. 第24回名張青蓮寺湖駅伝競争大会 p 11
7. もうすぐ、「日吉ダムマラソン」です p 13
8. 水よりなはなし p 16
9. 編集後記 p 18

◇ 利水者の皆様、関係者の皆様へ

利水者サービス課長 武田 浩一

いつも「水レター」をお読みいただき、ありがとうございます。

「水レター」は、平成20年5月に第1号を発行し、今回で第8号（号外を除く。）となります。平成21年度だけを見ますと、今回が4回目の発行です。

今年度は、水資源機構関西支社管内の業務報告や広報イベントの予定や参加報告、水に関わる話題を掲載したほか、利水者の皆様からも原稿をお寄せいただきました。原稿をお寄せいただいた大阪府水道部の吉田部長様、奈良市水道局業務部の小瀬次長様には、心よりお礼申し上げます。

この「水レター」は、多くの皆様に楽しく読んでいただけることが大事だと考えています。たとえば、ダム技術的な内容であっても、図表を使って、易しい言葉で説明することにより、興味を持って読んでいただけるように努めています。皆様が実際にお読みになったの感想をどしどしお寄せいただき、さらに理解され易い内容にしたいと思っております。

さて、まもなく新年度を迎えますが、利水者および関係する皆様には、できるだけ早い時期に担当者が訪問させていただき、新年度の予算内容や、次年度の特別経費（施設の補修や更新に関わる予算）の要求内容について、ご説明させていただく予定です。また、1月にいただきましたアンケートのご回答を踏まえて、関西管内事務所が一体となって業務改善を継続します。ご存じのように、水資源機構を取り巻く状況は厳しいものがありますが、皆様には新しい情報を電子メール等でできるだけ速やかにお伝えし、情報を共有できるようにしたいと考えています。

どうぞ、平成22年度も引き続きよろしく申し上げます。

◇ 関西管内の管理ダムにおける気象と水事情について

施設管理課課長補佐 森 高信

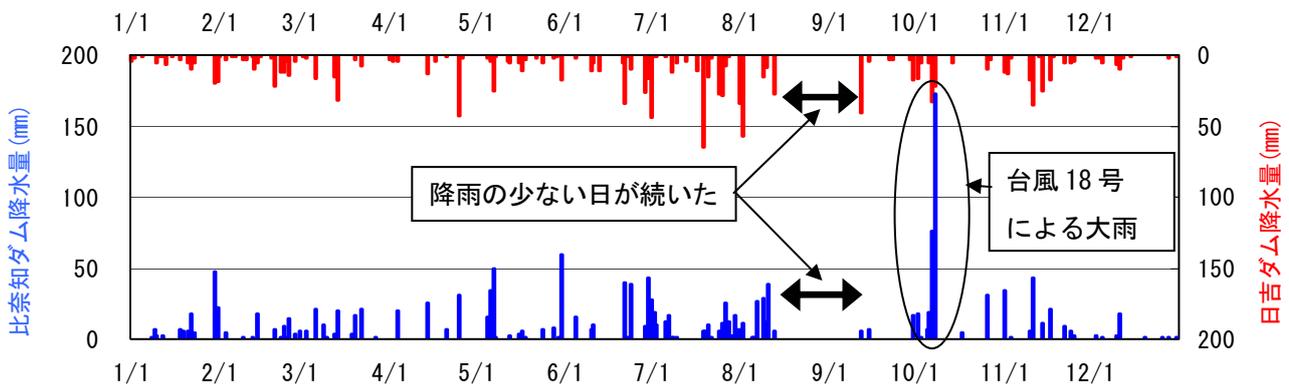
関西管内の管理7ダム（高山、青蓮寺、室生、布目、比奈知、一庫、日吉）地点における平成21年の降水量は、平均すると1,400mm程度でどのダムでもほぼ平年並みでした。夏から秋への季節の変わり目に極端な降雨現象が見られました。

日吉ダム地点での雨の降り方を見ますと、8/14～9/11まで降雨がほとんど観測されない日が約1ヶ月続きました。日吉ダム流域を含めた周辺の流域でも雨がほとんど降らず河川の水量が減少したためにダムから利水補給を行いました。8月20日頃まで満水だった貯水池は徐々に減り9月30日には貯水率28.3%まで低下しました。

この渇水に対して、関係者間での渇水調整が行われ、取水制限は最大で上水20%、かんがい30%となりました。



た。その後、10月8日台風18号の雨により取水制限は解除され貯水率はほぼ100%まで回復しました。



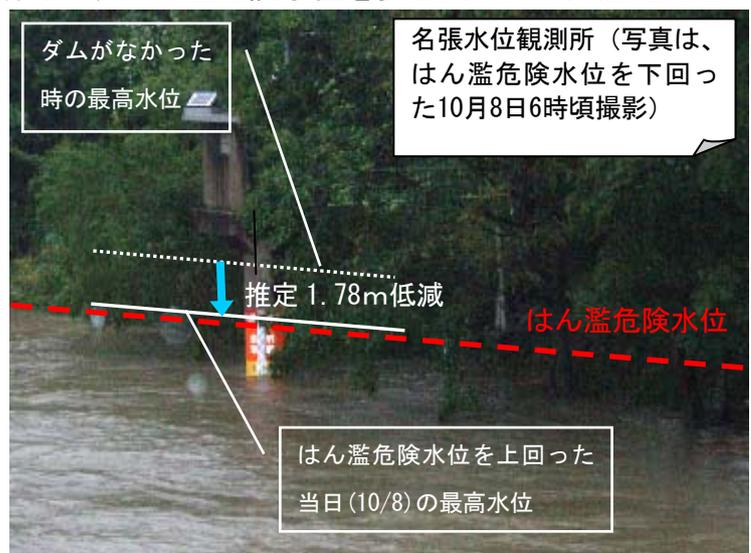
平成21年の日吉ダム地点(上段)および比奈知ダム地点(下段)における日降水量

一方、木津川支川名張川上流の比奈知ダムでは8月中旬から9月末までは少雨傾向でした。ところが、10月に入ると一転して台風18号が襲来し比奈知ダム地点で275mm※1(参考：青蓮寺ダム地点で246mm、室生ダム地点で225mm)の大雨をもたらしました。

台風による大雨で、10月8日未明、三重県名張市街地を流れる名張川の水位がはん濫危険水位を超え、同市街地で浸水被害のおそれがありました。水資源機構木津川ダム総合管理所が総合的に管理する同市街地上流の3ダム(青蓮寺ダム、比奈知ダム、室生ダム)で管理規程に基づく通常の洪水調節操作を実施した場合は、同市街地においてははん濫のおそれがあったため、国土交通省淀川ダム統合管理事務所との連携および指示のもと名張川の水位、雨の状況及びダムの容量等を勘案した、3ダムで連携した操作を行い、通常の操作より早い段階からダムへの流入水をダムに貯め込んだことで同市街地の浸水を回避できました。写真に示す名張水位観測所では、はん濫危険水位を少し(15cm)超えたところでピークとなり、仮にダムがなかった場合と比較して推定1.78mの水位上昇を抑えることができました。

今回の3ダムが連携した操作について、市民から「感謝の意を表したらどうか」というたくさんの方がきかけとなったそうで名張市長から感謝状をいただきました。

今後も利水者や流域の皆様のお役に立つダム運用に努めてまいります。



◇ 平城遷都1300年祭の開催

奈良市水道局業務部次長 小瀬俊治

2月3日に奈良市水道局に来局されました水資源機構関西支社総務部、調査役の青山様、総務部長の谷様、利水者サービス課長の武田様と福村水道事業管理者との話の中で、「平城遷都1300年祭」と、そのマスコットキャラクターである「せんとくん」が話題にあがりましたので、今年度の奈良県内の一大イベントのPRを兼ねて、その詳細について書きたいと思います。

1. 平城遷都1300年祭の開催趣旨

平城遷都1300年祭は、我が国の本格的な首都「平城京」が710年（和銅3年）に誕生してから1300年目にあたる2010年の今年、「はじまりの奈良、めぐる感動」をキャッチコピーとして、平城京誕生の地である奈良県を中心に一年を通じて開催されます。

この平城遷都1300年祭を機に、日本の歴史・文化が連綿と続いたことを祝い、感謝するとともに“日本のはじまり奈良”を素材に、過去、現在、未来の日本を考えては如何でしょうか。



平城遷都1300年祭の中核となるイベントは、「平城遷都1300年記念祝典」、「東アジア未来会議奈良2010」で、いずれも内外の幅広い賛同と参加のもとで国家的・国民的事業として展開されます。これらは、平城宮跡等の歴史・文化遺産としての意義の普遍化のみならず、我が国と諸外国との交流促進に寄与するとともに観光交流の一層の拡大を通じて関西圏の振興を図ること、奈良全体を関西の国際的な歴史文化観光拠点として発展させ2010年以降の奈良・関西の継続的観光周遊な

システムの構築につなげること、などを目的として開催されます。

2. 平城遷都1300年祭の事業構成

平城遷都1300年祭事業は、大きく「平城宮跡事業」、「県内各地事業」、「関連広域事業」、「事前展開事業」の四つの柱で構成されています。

「平城宮跡事業」では、平城遷都1300年祭のメイン会場となる平城宮跡及びその周辺において、宮跡内の復原施設や展示施設との連携のもとに、当時の歴史文化を実体験できる場所と機会が提供されます。

また、「県内各地事業」では、県内各地の歴史、文化、自然等の様々な素材を活用し、「巡る奈良」をキーワードに、世界遺産をはじめ地域の特性を活かしたイベントや催行事が一体的に展開されます。訪れる人々が奈良の多彩な魅力を堪能し、県内を快適に周遊・探訪していただける回廊ルートも案内されています。

また、「関連広域事業」では、平城遷都1300年祭の中核事業として展開される「東アジア未来会議奈良2010」をはじめ、国際コンベンション、フォーラム等を開催するとともに、古京や万葉ゆかりの各地等との連携イベントが県内外で実施されます。

さらに、「事前展開事業」は、みなさんご存じのマスコットキャラクター「せんとくん」が県内外から多くの出演オファーをいただき、平城遷都1300年祭の気運を盛り上げてきたところです。



以下に、「平城宮跡事業」、「県内各地事業」、「関連広域事業」をご紹介します。

(2-1) 平城宮跡事業 【期間：平成22年4月24日～11月7日】

平城宮跡事業の目玉は、やはり文化庁によって復原されている「第一次大極殿正殿」です。本殿は、当時政治や儀式が執り行われた建物であり、その存在は正に平城宮のシンボルともいえるもので、4月末には復原工事の竣工を祝祭する完成記念式典が行われる予定です。

平城宮跡事業は、メイン会場となる平城宮跡及びその周辺において、4月24日から11月7日までの期間で、通季イベントと春・夏・秋の季節フェアが展開されます。

通季イベントとして「平城京歴史館」では、古代、激動・激変の東アジアのなかで、日本が国家として基本的枠組みが形成されてきた歴史や、先人たちの国づくりにかける情熱に感動的に出会う場が提供されます。また、本館北側に隣接して原寸大に復原される「遣唐使船」は、実際に乗船体験もでき、館内の遣唐使シアターで映像と一体的に体感できるようになっています。ただ見るだけ

でなく、実際に体験していただき、そのすばらしさを感じてもらえるのが、このイベントの大きな魅力のひとつになっています。

また「平城京なりきり体験館」を中心にした「体験楽習広場」では、当時の衣・食・住などを題材に、文字どおり楽しんで学んでいただける場になっています。

季節フェアでは、四季折々にイベントや催行事が行われます。春の「花と緑のフェア」では、大極殿の完成披露に併せて宮跡各所が花や緑で飾られます。また、交流広場の「まほろばステージ」でも、奈良とゆかりのある地域からの参加者による「春の宴」が開催されます。

夏には、奈良の夏の夜の風物詩となった燈花会やLEDなどのイルミネーションを駆使して宮跡内の夜を彩る「光と灯りのフェア」が展開されます。

そして秋には、集大成として「平城遷都1300年記念祝典」に、皇室及び国内外から賓客をお迎えし、国のはじまりから1300年という歴史を祝い、将来に向けた友好・交流のメッセージとして、「平城京宣言」が国内外に発信されます。

また「平城京フェア」では、「第一次大極殿正殿」前にスペシャルステージを設け、奈良ゆかりのアーティストによるオリジナリティにあふれた、芸術性の高いコンテンツの「大極殿音絵巻」が、また古代行事や儀式を今に楽しめるように再現した「曲水の宴」や「平成散楽」など、盛りだくさんのイベントがフィナーレに向けて展開されます。

平城宮跡会場は、期間中毎日、平城宮跡内のどこかで何かイベントが行われているという感じになります。



（２－２）県内各地事業 【期間：平成22年1月1日～12月31日】

1月1日にオープニングイベントが華々しく開催されましたが、それを皮切りに、秘宝・秘仏の特別公開など、県内各地の多彩な魅力を満喫していただけるイベントが展開されます。

県内を平城京周辺、斑鳩・信貴山周辺、飛鳥・藤原周辺、葛城周辺、吉野周辺、大和高原・宇陀周辺の6つのエリアに分け、「巡る奈良」をキーワードに観光事業者と連携して、多くの方々に快適に回っていただけるよう奈良歴史探訪回廊ルートの旅行商品化も検討され、県内に点在する歴史文化、自然の魅力が体験できる「歴史探訪ウォーク」など、奈良を巡る多彩な催行事が計画されています。

（2-3）関連広域事業 【期間：平成22年1月1日～12月31日】

関連広域事業としては、国際コンベンション、フォーラム等の開催が計画されています。「東アジア未来会議奈良2010」の中核となる「東アジア地方政府会合」のほか、「日本と東アジアの未来を考える委員会」、「APEC観光大臣会合」、「世界宗教者平和会議40周年記念事業」、「第12回世界歴史都市会議」、「東アジア比較文化国際会議」などの開催が計画されています。



また、歴史的に関わりのある東アジアのゆかりの地を中心に、「こども遣唐使」交流事業や上海国際博覧会に日本館を出展するなど相互交流が図られます。

奈良市水道局としましても、平城遷都1300年祭を盛り上げていくために、PR等、積極的に協力したいと考えています。この平城遷都1300年祭を契機として、自然環境に調和した、多くの世界文化遺産に囲まれた、文化の香りの漂う古都奈良を国内外にアピールし、一人でも多くの方に奈良に来ていただきたいと思えます。

◇ 京都府乙訓浄水場と大阪府村野浄水場を見学して

設備課課長補佐 松浦良宏

今年度に入ってから、ユーザー様のご協力により浄水場や排水機場を見学させていただく機会を得ることが出来ました。この見学会は私たち水資源機構の職員が、利水者の方々との交流の一環として、利水者の持つ施設や事業を理解することを目的としているものです。私の常日頃の業務が、設備関連業務ということもあり、どの施設もユーザー様それぞれの施策や管理方針、手法、コスト管理等が色濃く反映されており、興味深く見学させていただきましたが、特に今回は下記の2浄水場について下手な文章ではありますが思ったところを書かせていただきましたのでお付き合いください。

見学させてもらった施設と見学日時

京都府 乙訓浄水場 平成21年12月17日

大阪府 村野浄水場 平成22年2月25日

【集中と分散、リスク管理とコスト縮減】

設備の構築については、色々と手法があり、担当の方からのお話では、浄水場の場合、

- 域内の将来的な水需要
- 投資できるコスト
- 需要の上昇していくスピード
- 将来的な人口減を見越した償却施設の検討等
- 設備設営に必要な用地

様々な要因が絡んで、その決定の困難さが伺えます。上記は非常に予測が困難ですし、設備を設置するには、ライフラインの「水道」だからと言って、当然ながら人員も無尽蔵に許していただけではなく、設置・運営の方法にそれぞれのユーザー様の考え方が反映されていました。

京都府の乙訓浄水場の特徴は分散によるリスク低減とアウトソーシング化の実践です。



乙訓浄水場説明風景

京都府の各浄水場は災害や事故等で浄水場が機能停止・送水停止となった場合は、供給可能な浄水場をネットワーク化することによって、相互にバックアップを行い、非常時でも、受水市町への平均給水量の約7割の供給が可能な体制を整えています。

管理の運営については、24時間管理を行う設備管理はアウトソーシング化が導入されていました。

これに対して、大阪府の村野浄水場は日量179.7万立方メートルという、大阪府の中だけでなく、日本でも有数の水道供給を一施設で担っています。



管理、運営については、担当する職員が中心になって行っておられ、代替設備がない以上、集中した大規模設備を可能な限り安全度を

村野浄水場「高度浄水処理施設」

高めていくと言う姿勢をとられています。

どちらの設備でお話を聞いても、おかれている環境下で少しでも安全で確実に水道水を供給していく。また、昨今非常に問われているコスト削減・環境への配慮という問題には真摯に取り組まれている状況がよく分かり、今後の設備の運営、管理業務の参考にさせていただくことが出来ました。

今回の見学にご協力いただきましたユーザー様、有り難うございました。

◇ 国際生物多様性年にあたりダム湖畔にて思うこと

関西支社長 原 稔明

今年は国連の国際生物多様性年とのことです。10月には名古屋で生物多様性条約の第10回締約国会議(COP10)が開催されます。

生物多様性には、①生態系の多様性 ②種の多様性 ③遺伝子の多様性 の三つの側面での多様性がいわれております。また、生物多様性とは「生き物たちの豊かな個性とつながり」と定義されています。

今私たちを取り巻く環境は、種の減少・絶滅、生息・生育地の減少、自然の質の低下、そして化学物質等による生態系の攪乱の危機にさらされつつあります。生物資源を持続可能な方法で利用しつつ、多様な生物とその生育環境を保全する事が喫緊の課題となっています。

【ホロスぺシア（生物全体社会）】

「今西学」といわれた自然学の一大体系の提唱者の今西錦司博士は、「ホロスぺシア」という言葉をつくっています。「個体」と「種社会」のほかに種社会を束ねる「生物全体社会」なるものを構想しました。そして、「その三つが互

いに歩調を合わせながら変わっていくものを生物の変化つまり進化」としたとのこと。この「ホロスぺシア」こそ、生物多様性を的確に捉えた考え方ではないでしょうか。

【新たな年に、包み込む力を社会に、地域に】京都新聞2010年元旦の社説より抜粋

・助け合う基盤が崩れ

社会が薄っぺらになっている。会社や地域、家族との関係が断たれ、相談相手がない状況。人がふれあう場が消えていき、地域のきずなが弱くなっている。単身赴任や独居者が増え、高齢化が進み若者の姿が見えない。欧州では、「社会的包摂」という政策を打ち出した。

・人と人が出会う場を

年末にあった大津市の講演会で劇作家の平田オリザさんは、地域のきずなを再生する文化の力を訴えていた。平田さんが提唱するのは、いろんな人々が出会う空間としての文化だ。

「だれかが、だれかを知っている社会であることが大事」と話す。

地元の人材によって、地域を再生していく好機を逃してはならない。地域が生き生きして、人と人がつながる場をいくつも持つことが大切だ。

【流域の守番としての私たちの使命】

現代の日本社会に一番欠けていることは、「社会の繋がり」「人々との繋がり」であり、「絆の復活」が日本国民の大きな課題のように思います。

21世紀は、「水の時代」「心の時代」とも言われております。今、ダムやダム湖は、人と人がつながる場として貴重な空間になっており、ダム湖周辺では地元の人々によってマラソン大会や自然の特徴を生かした水辺空間を利用してイベント等の地域再生の試みがなされています。また、私たちが行う「河川水辺の国勢調査」により、プランクトンからアユ、サツキマスさらにクマタカ、イヌワシまでの生きものたちの時々刻々のつながりを認識でき、ダム湖とその流域に棲む多様な生物世界が概観できます。

河川水辺の国勢調査は、魚類や底生動物、植物等の調査項目別に河川やダム湖、流域に調査地点を決めて、5年～10年に1回の頻度で実施されています。

河川にダムができれば、河川環境等への影響は少なからず発生します。この影響を長期的に追跡・分析し、ダム湖、河川、流域の自然環境が健全な状況を保っているか、逆に小さな異変が起こっていないかチェックすることが重要と考えます。

命の水は、川と森とそこに棲む生き物たちと繋がっております。水を守ることとは、川を守ること、森を守ること、ひいては流域を守ることです。逆に、流

域を守ることは最終的に質量ともに水をまもることにつながります。

日々の河川やダム湖の水質調査と「河川水辺の国勢調査」等を通して、ダム流域の環境モニタリングを持続的に行っていくことが、流域の守番、自然の守番としての私たち水資源機構に与えられた大切な使命と考えます。

次に、このように私たちのフィールドから得られたデータをもとに「流域のありのままの姿」や「水の織りなす世界とその感動」を広く流域にお住まいの皆様や利水者の皆様にお届けして、心の癒し、地域の絆の復活に微力ながら貢献することも水資源機構の新たな使命かと考えます。

今年2010年を、生き物たちのそれぞれの「個性」を尊重し、プランクトンから私たち人までの全ての生き物たちが連綿と繋がっていることを正しく認識する一年にしたいと思います。

“ありがとう びわ湖よど川 水の恵み”



◇ 第24回名張青蓮寺湖駅伝競走大会

木津川総合管理所青蓮寺ダム管理所所長代理 北川泰則

去る平成22年2月28日(日)、青蓮寺ダム湖周回コースにて名張青蓮寺湖駅伝競走大会が開催されました。

昭和62年3月の第1回大会以来、途中荒天による中止が2回あったものの、今年で24回目の大会を迎えました。今大会は、名張市をはじめ市教育委員会、体育指導委員協議会、陸上競技協会及び地元の青蓮寺区、中知山区、青蓮寺ぶどう組合、木津川ダム総合管理所、NPO法人なばり総合型地域スポーツクラブで構成される大会実行委員会が主催し、『駅伝競走を通して、淀川流域の交流を深めるとともに、大会参加者の体力づくりと相互の融和をはかり、健康で明るい地域社会の形成に努める』(大会要項より)ことを大会趣旨として行われました。

大会1週間前には地元有志の方々がコースを清掃して下さり、当日は青蓮寺ぶどう組合による「豚汁」のサービスが行われました。このサービスは「寒空の下で頑張る選手や観客、運営スタッフのために」と平成9年より続くもので、毎年大好評です。また、青蓮寺ダム近くの名張西高校陸上部員が中継点走路員を担当し、青蓮寺ダム管理所はAED等機材の貸出や集計場所の提供、記録写真の撮影に協力致しました。駅伝コースすぐ傍のホテルは参加賞として温泉入浴割引券を提供するなど、地域に根ざした手作り感溢れる温かみのある大会運営によって、今では青蓮寺ダムの恒例行事となり、近年のマラソン人気も手伝って年々参加者が増加しています。

今年の参加者数は、選手419人(54チーム)、スタッフ120人、応援を含めて全体で約650人(名張市役所発表による)でした。参加チームはマラソン愛好家サークルや職場の仲間、学校の陸上部など健康目的の方から本格的な長距離チームまで様々で、箱根駅伝出場者を擁したチームもあり



ました。選手の年齢も下は15歳から上は男性74歳、女性61歳と幅広く、名張市近隣の市町村だけでなく、遠くは石川県から出場の選手もいらっしゃいました。水資源機構からは、男子の部へ木津川総合管理所(木津総)A、木津総Bの2チーム、男女混成の部は琵琶湖、木曾川用水、水資源①・②・③(川上ダム)、RUN-dam(木津総)の6チームが参加しました。

大会前日から雨が続き、悪条件でのレースが予想されましたが、大会受付の

始まる午前8時30分頃には雨もすっかり上がって路面の状況も徐々に回復し、選手達が心おきなく自慢の足を披露できる舞台が整いました。午前10時30分、青蓮寺ダム左岸駐車場前から男子チームが、青蓮寺橋から女子・男女混成チームがスタート。ダム湖のあちこちで選手への熱い声援が一斉に上がりました。コースはダム左岸側のアップダウンの厳しい2.1km区間と右岸側のカーブが続く3km区間、男子はダム湖1周5.1kmの区間もあり、選手達は歯を食いしばって足を前へ前へと振り出し、必死に坂を上っていました。その懸命な姿に自然と観客から声がかかり、選手たちはその声に応えるようにさらに力走を見せてくれました。また、襷の中継点付近では多くの方が集まっており、特に「パパ頑張ってる」と不安げな表情をしながらも、大きな声で父親を呼ぶ女の子の姿に思わず胸が熱くなりました。一般ランナーが集う地域の大会ならではの心温まる場面がそここで見られ、大会が永く続いてきた理由を垣間見ることが出来ました。

さて、競技結果は全チームが無事完走し、男子の部はラン・ホリックチームが6連覇、女子の部は大阪の星翔高校女子駅伝部が2連覇し、圧倒的な強さを見せました。個人記録においては男子、女子1つずつ区間新記録が誕生しました。そして水資源機構チームは大会を大いに盛り上げる成績を収めることが出来ました。男子の部出場の木津総2チームは前年の記録を10分以上短縮し、大会前1ヶ月間の練習の成果が見事に表れていました。オープン参加の男女混成の部は、前年の9チームから倍増して今年は20チームの参加となりました。そのため急遽特別賞が設けられ、上位3チームが表彰されました。その中の第2位が、13.2kmを58分4秒というタイムで快走した「琵琶湖(水資源機構)」チームです。素晴らしい結果で、水資源機構の他の5チームにとっては来年の大会に向けて励みとなりました。また、競技終了後のお楽しみ抽選会で木津総の選手に「伊賀米10kg」と「スポーツウォッチ」が当たり、これも選手の頑張りを労うものとなりました。

名張青蓮寺湖駅伝競争大会は例年3月の第一日曜日に開催予定されています。各区間2kmから5kmとどなたにも挑戦しやすい距離で、美しい自然と豊かに水を湛えた青蓮寺湖を満喫しながら駅伝が出来ます。日頃鍛えた健脚を披露するため、また職場やグループのチームワークをより一層高めるため、おいしい豚汁や豪華商品を獲得するために、皆さん、名張青蓮寺湖駅伝競走大会に奮ってご参加下さい。お待ちしております。



◇ もうすぐ、「日吉ダムマラソン」です。

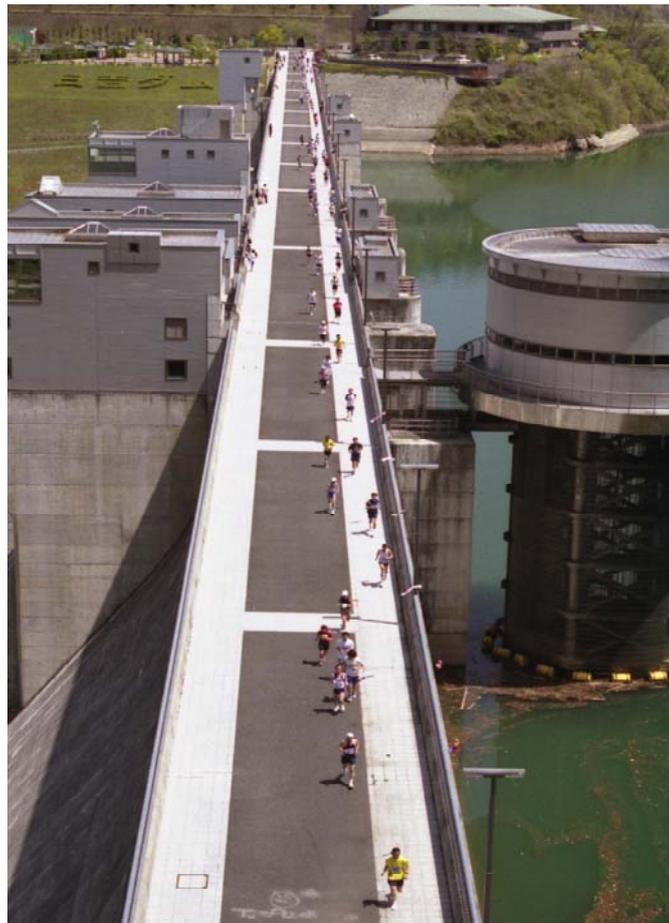
日吉ダム管理所長 小野寺直

この冬は日吉ダム周辺でも寒い日が多く、1月14日にはダムサイトで -7.4°C を記録しました。この気温はこの数年間では最低の気温でした。その一方で、降水量は極端に少なく、少しまとまって雨や雪が降ったのは2月6日以降のことでした。北海道、東北や北陸などの日本海側の地方では大雪だというのに、日吉ダム周辺では雪が積もったのは1回だけ。日吉町の北隣の美山町の「かやぶきの里」で毎年2月初めに開催されている「雪灯廊」のライトアップイベントも、今年は主役の雪がありません。このような低温少雪の冬でしたので、日吉ダムの貯水量の回復も心配されましたが、2月に降った雪や雨のおかげで2月末には満水状態になりました。

寒かった冬も2月下旬は一転して春のような陽気になり、桜の開花も早まりそうな気配です。お花見のシーズンが終わると、日吉ダム周辺では、毎年恒例の「日吉ダムマラソン」が平成22年4月25日（日）に「府民の森ひよし」で開催されますので、ご紹介します。

日吉ダムマラソン

日吉ダムマラソンは、平成10年4月の日吉ダム管理開始を記念して始まったもので、今年で13回目を迎えます。マラソンコースは、全て日吉ダム建設に伴ってできた道路であり、スタート・ゴール会場の「府民の森ひよし」は、ダムの材料採取地で発生した残土を捨てた跡地を整備してできた所です。競技種目は、大きく分けて、ハーフマラソン、10キロ及び3キロの3つがあり、毎年合わせて約3000人のエントリーがあります。昨年は、新たに小・中学生の部ができて、約2,700人の参加と



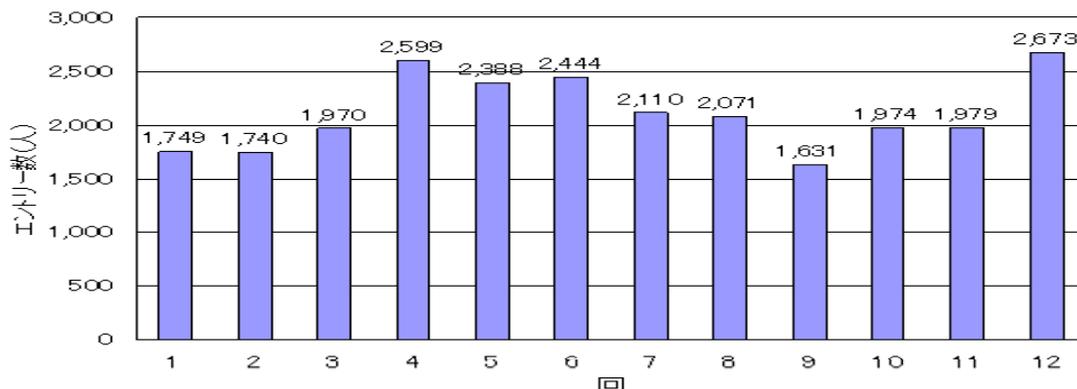
なりました。この大会の運営は、地元の実行委員会とボランティアスタッフで行われており、日吉ダム管理所も堤頂に歓迎の横断幕を飾るなどの雰囲気づくりに協力しております。

日吉ダム堤頂を走るランナー（小園深志氏撮影）

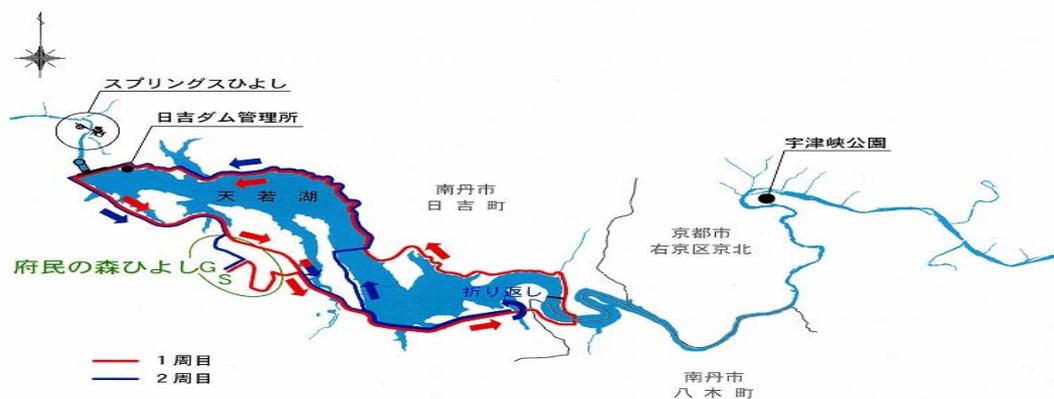


走り終わった後は、会場の「府民の森ひよし」でバーベキューするもよし、ダム下流にある「スプリングスひよし」の天然温泉につかるのもよし、様々な楽しみ方がありますので、是非お越し下さい。

参加者数推移



日吉ダムマラソン（ハーフマラソンコース）



一口メモ（コースの変遷）

日吉ダムハーフマラソンコースは、当初から見るとかなり変更されています。当初（第1回（H10）～第7回（H16））は、左図のように貯水池上流の宇津峡公園付近で折り返し、ダム湖を一周するコースでした。その後、平成16年10月の23号台風で、貯水池上流で法面崩落が起こり道路が不通となったため、第8回（H17）と第9回（H18）は、右図のように上流でコース変更されました。しかし、このコースは上り時の勾配がきつくランナーから不評だったこともあり、第10回（H19）からは貯水池を二周する現在のコースになっています。



水資源機構・関西管内ダムとマラソン大会

ダムと市民マラソン大会の関わりは非常に強いものがあります。ダム湖周辺は自然に恵まれ、舗装され勾配も比較的なだらかな道路があり、沿道からの景色も変化に富んでいるからだと思います。今回紹介した日吉ダムマラソンの他にも、次のとおり、当機構の関西管内ダムに関わる大会がありますのでご紹介します。

- 川上ダム…青山高原ツツジマラソン（5月）
- 一庫ダム…川西一庫ダム周遊マラソン（11/23、2,000人規模）
- 布目ダム…やまぞえ布目ダムマラソン（12月、2,000人規模）
- 比奈知ダム…名張ひなち湖紅葉マラソン（11月、数百人規模）
- 室生ダム…室生新春湖畔マラソン（1月、300人規模）
- 高山ダム…高山ダムクォーターマラソン（2月、数百人規模）
- 青蓮寺ダム…名張青蓮寺湖駅伝競争大会（2月、5～6人一組
×約50チーム）

足に自信のある方、10キロなら何とか完走できそうという方、これらマラソン大会にも是非挑戦してみたい方はいかがでしょうか。

◇ 水よりなはなし

今回から3回にわたり、ダム愛好家の「夜雀ちゅん吉」さんに、淀川河口から琵琶湖に至る主な河川施設取材いただき、その報告を寄稿していただくことになりました。

夜雀さんは、当機構のみならず、国・府県・電力会社等のダム関係者に有名な方です。とにかくダムが好きで当機構職員が舌を巻くほどの博識ぶりです。昨年末には東京のお台場で日本中のダム愛好家が参加する集会で木津川ダム群の台風18号対応プロモーションビデオを発表され、絶賛されました。また、夜雀さんは奈良県にお住まいですが、愛車に鞭を入れてどんな遠方でも精力的にダム巡りをされています。

第1回は水都大阪のはなしです。



雀の近畿
水辺散歩

水都大阪のホントの主演は
毛馬にあり♪

写真と文 夜雀ちゅん吉(ダム愛好家)



ラバーダックが一番の人気者だった「水都・大阪2009」。
たくさんの方に“水の都・大阪”をPRできたイベントだったようです。

個人的に、このイベントでアクアライナーや屋外展示、ラバーダックと同じくらい注目してほしいと思っていたのが「毛馬」でした。



「毛馬」と言えば文化財や史跡に興味のある方なら「毛馬閘門」を思い浮かべられるでしょう。



私は「毛馬」と聞けば「排水機場」が浮かびます。

淀川大堰・毛馬閘門・毛馬水門・排水機場
大阪が誇るこの施設は実はあまり知られていないのかもしれない。



大阪は水の都というけれどその川の水量・水位をコントロールしているのが毛馬の諸施設だとどれだけの府民が知って居るでしょうか。

中ノ島の左右を流れる堂島川と土佐堀川。淀川大堰から来た水で支えられています。

中之島の左右には京都、三重、滋賀、大阪から来た水が融合しているのです。

この水は安治川、尻無川、木津川を經由して大阪湾に到達します。

芥川、桂川、宇治川、木津川の水が集まって淀川になります。これらの水がそのまま海に流れることなく大阪市内をめぐるようにコントロールしているのが淀川大堰と横にある毛馬水門。70～110t/sの範囲で大川に水が取り込まれます。淀川から大川ルート以外に大阪市内の川に流入するのが寝屋川ルートです。寝屋川、第二寝屋川の水は大川に直接、流入します。



海拔0m地帯が広がる大阪は台風時には高潮の脅威にさらされます。高潮が来る時には、国内でもここだけというバイザゲート型防潮水門が安治川、尻無川、木津川で閉じ同時に毛馬水門では大川への取水を止めて普段と逆の方向、大川から淀川へと水を送り出します。この役目を担うのが排水機場です。そして淀川大堰はゲートを開け、淀川の水が速やかに海に流れるように操作されるのです。

高潮や洪水時には水位を下げ、渇水時には水質を落とさないよう大阪湾の潮位に合わせてフラッシュ操作という放流量の調整が行われます。



水都大阪の素敵な景観を支えていたのが「毛馬」という先人の知恵と努力で完成され素晴らしい事業・施設だと知っていただく機会が今後もたくさんあれば嬉しく思います。

◇ 編集後記

年度末が迫り、今年度の業務の総点検とまとめに余念がない方も多いのではと思いつつ水レターVol 8を発刊できました。ご協力していただいた方々に感謝いたします。

今回は奈良市水道局の小瀬次長様から寄稿いただきました。奈良市水道局は布目ダムの水を利用していただいておりますが、布目ダムの建設当時はダム建設予定地の柳生の里に水道局の現地事務所があり、調査や用地補償交渉も水資源機構の職員とともに関係者の方々のお宅に出向き、ダム建設のための協力をお願いし、これまでにない短い時間で布目ダムを完成に導くことができました。このような昔の状況を知る人もだんだん少なくなって来ております。「平城遷都1300年祭」が無事成功のうちに終わることを心から祈念いたします。またダムマニアの「夜雀ちゅん吉」さんからも寄稿していただきました。これから数回にわたり紙面をにぎやかにしていただければ幸いです。

最近、気になる映画が上映されています。世界各地で対立が深刻化する水問題に警鐘を鳴らすドキュメンタリー米映画「ブルー・ゴールド」が静かな反響を呼んでいます。映画のメッセージは、水不足の国よりも水資源が豊かな国にとって、より重要な意味を持ち、自国の水資源が他国のターゲットになるかもしれないということ意識させるような内容の映画です。関西エリアでは2010年3月20日(土)から淀川区の「第7藝術劇場」で上映される他、「京都みなみ会館」や、「神戸アートビレッジセンター」などでも近く公開予定だそうです。仕事の合間に行かれたら如何でしょうか。



大阪城梅林公園

水レター「びわ湖・よど川」に対して、ご要望、ご意見等がございましたら、下記アドレスまでご連絡下さい。(耳寄りな情報もお待ちしています。)



<mailto:w-kansai@msg.biglobe.ne.jp>